

男子新体操の普及と競技力向上のために  
—トップチームを招いた演技会の開催—

体 操 専 門 部

山形県立遊佐高等学校

佐 藤 武 典

## 1 男子新体操とは

新体操 (rhythmic gymnastics 略称 RG) は、以前は男女とも団体徒手体操と呼ばれ、昭和48年から現在の名称が使われるようになった。演技は、「徒手」と呼ばれる全身のリズミカルで正確な体の動きと、「タンブリング」と呼ばれるさまざまな宙返りの技術と伴奏音楽で構成され、弾力ある演技用フロアの上で実施される。個人演技は手具 (ステック、リング、ロープ、クラブ) を正確に操作しながら1分30秒間の演技を、団体演技は手具を持たない6名の選手が3分間演技する。採点は、個人は10点満点 (構成5.00点、実施5.00点)、団体は20.00点満点 (構成10.00点、実施10.00点) の減点法である。個人は身体と手具がリズミカルに調和して動く正確性、手具を投げ上げた後タンブリングを行い再び受け取るなどの高度な技術、団体は複数名が寸分の狂いもなく同調して徒手やタンブリングを行う正確性、タンブリングの上をタンブリングで越えるなどの高度な技術が見せ場である。

近年の流行は、他の表現運動の技術を取り入れ、今までにない新しい美しさや表現を目指すことである。バレエからは膝やつま先の美しさを、ダンスからは全身の表現力を、チアリーディングからは人を持ち上げたり投げ飛ばす技術を取り入れて演技を構成するチームが多く、新体操以外の表現運動の経験者が見ても「美しい」「自然である」と感じさせる作品づくりを目指している。また、伴奏音楽と演技を調和させる (音楽と表現を一致させる) ことも作品づくりに重要であり、作曲者と演技者は何度も曲と演技を練り直す。

全国大会として、ジュニア (小中学生) は全日本ジュニア新体操選手権、全日本ユースチャンピオンシップ、高校は全国高校総体、全国高校選抜、大学は全日本学生選手権、社会人は全日本社会人選手権が開催されている。そしてこれらの大会を予選とした国内最高の大会は全日本選手権である。また、国体種目としては2008年の大分国体を最後に休止されているが、それに代わる大会として男子新体操団体選手権大会が開催されている。さらに、全国各地で演技会や冠大会、日本体操協会主催のWEB選手権 (映像採点) も開かれている。

男子新体操は日本独自のスポーツであるため国際大会は開かれていないが、4年に1度ヨーロッパで開催される世界体操祭 (ワールドジムナストラダ) や海外のパフォーマンスイベントに国内の上位チームが参加し、世界への認知度を高めようとしている。

加えて、最近では男子新体操を前面に取り上げた飲料のCMやテレビドラマで放送されている。

## 2 本県の高校男子新体操の現状

現在、酒田東高校 (昭和26年創部) と遊佐高校 (平成12年創部) の2校に男子新体操部がある。過去10年の競技記録と選手数の推移を下の表にまとめた。両校とも団体は過去10年間、東北予選を勝ち抜いてのインターハイ出場はない (平成14年度は高体連専門部記念大会枠で遊佐が出場)。また、個人は県高総体が予選であり毎年インターハイに出場しているが、個人総合・個人種目別ともに優勝はなく入賞に留まっている。そして、両校とも過去10年間にわたり部員数が一桁台であり、インターハイ予選に団体で出場することができない年度もあった。このようなことから、本県男子新体操の競技力低下と選手数減少には、分かち難い関係とサイクルがあるという考えに至り、これまでにない新しい競技力向上と普及対策の必要性を感じた。

表 1：過去 10 年の競技成績と選手数（県高校総体参加者数）の推移

年度	2000 平 12	2001 平 13	2002 平 14	2003 平 15	2004 平 16	2005 平 17	2006 平 18	2007 平 19	2008 平 20	2009 平 21
インターハイ団体出場			○							
インターハイ個人入賞				○		○	○			
遊佐	4	5	8	4	7	6	6	4	8	4
酒田東	5	4	3	5	4	8	8	8	5	1
合計（人）	9	9	11	9	11	14	14	12	13	5

※個人入賞はインターハイ個人総合・種目別 6 位以内。

※2002 年度団体出場は高体連専門部記念大会枠で出場のため県高総体で予選通過。

### 3. トップチームを招いた演技会「YUZA GALA（ユザ・ガーラ）」の開催

※GALA は順位を競わない演技会を意味する。

2008 年 7 月、遊佐高校新体操部後援会は新体操男子用演技フロアを購入した。遊佐高校の協力により同校体育館に常設することとなり、これによって常に試合と同様のアクロバティックな演技を遊佐高校で行うことが可能になった。

#### （1）第 1 回男子新体操演技会「YUZA GALA 2008」

- ①日 時 平成 20 年 11 月 23 日（日）10：00～12：00
- ②会 場 遊佐高校体育館
- ③主 催 遊佐高校新体操部後援会を中心とした近隣有志の実行委員会、遊佐高校職員
- ④演技者 遊佐高校（団体、個人 2 名）  
酒田東高校（団体、個人 1 名）  
R 新体操ジュニアクラブ（女子新体操の集団演技）  
友野透選手（酒田 RG 所属、全日本社会人大会出場）  
秋田 SAKURA クラブ（男子個人 1 名）  
青森山田高校男子新体操部団体・個人（平成 20 年度インターハイ団体 3 位）  
盛岡市立高校男子新体操部団体（平成 20 年度インターハイ団体 4 位）

#### （2）第 2 回男子新体操演技会「YUZA GALA 2009」

- ①日 時 平成 21 年 11 月 22 日（日）10：30～12：00
- ②会 場 遊佐高校体育館
- ③主 催 YUZA GALA 実行委員会（遊佐高校新体操部 OB、遊佐高校職員、演技者の保護者）
- ④演技者 遊佐高校（個人 3 名）  
酒田東高校（個人 1 名）  
秋田名桜高校（個人 1 名）  
R 新体操ジュニアクラブ（女子新体操の集団演技）  
友野選手（酒田 RG 所属、平成 21 年度全日本社会人大会 2 部個人総合優勝）  
工藤博仁選手（秋田県体操協会所属、全日本社会人大会出場）  
青森大学男子新体操部団体・個人（平成 21 年度全日本選手権団体優勝）

(3) 演技会資料

①宣伝ポスター（2009）遊佐町広報とともに町内全世帯に配布した。



②会場の様子（2008）



③オープニング

R新体操ジュニアクラブ（左 2008、右 2009）



③個人演技

酒田RG友野選手リング（2009）

青森大学柴田選手 ロープ開脚跳び（2009）

野選手



遊佐高校今



#### ④タンブリング体験

ミニトランポリンを使って前方宙返りにチャレンジ（左 2008、右 2009）



#### ⑤団体演技

青森山田高校団体のバランス（2008）



盛岡市立高校団体の鹿倒立（2008）



青森大学団体の躍動感あふれる演技（2009）



遊佐高校・酒田東高校合同チームの団体演技（2008）



#### ⑥エンディング（2009 この演技会を最後に引退する青森大学の選手2名に花束贈呈）



## 4. 演技会の反省・課題

- (1) 多くの人が初めて男子新体操を見る機会になった。第1回目は約1,000人、2回目は新型インフルエンザの流行もあったが約500人の人達に演技を披露することができた。男子新体操を身近に感じてもらえるよう演技フロアと観客席を3メートル(大会の審判席と演技フロアの距離は6メートル)まで近づけ、間近で演技が見られるようにした。また、場内の子どもたちを対象とした「タンブリング体験」や、各チームの指導者が演技解説や選手紹介をするなど、物理的な距離以外の身近さも感じてもらえたらとプログラムを工夫した。今後はさらに、作品の意図などが伝わるような解説や演出の工夫をしたい。
- (2) 観客の反応は非常に良かった。本県選手と県外選手との力の差は明らかだったが、すべての演技に大きな拍手が送られ、本県選手達も初めての「点数も順位も付かない演技会」を楽しむことができたようである。この演技会が選手達に演技の楽しさや喜びを理解させ、新体操観の変化や成長の機会になったと感じる。
- (3) 演技会後に、男子新体操をしたいという町内の小学生2名が、遊佐高校で週2日の練習を始め、今春、地域の大会に出場できた。中学校入学後も上位の大会を目指して選手を続ける意向を持っている。男子新体操も他のスポーツ同様、ジュニア期からの強化が県外では一般的になりつつある。今後、遊佐高校を会場に小中学生を対象にしたタンブリング教室を開催する予定だが、県内に普及と競技力向上のサイクルを作るきっかけとなったのが本演技会であると言える。

## 5. 今後の普及事業

### (1) 第3回男子新体操演技会「YUZA GALA 2010」

- ①日 時 平成22年9月17日(金) 18:30~20:00
- ②会 場 遊佐高校体育館
- ③主 催 YUZA GALA 実行委員会(遊佐高校新体操部OB、遊佐高校職員、演技者の保護者)
- ④演技者 遊佐高校、酒田東高校、R新体操ジュニアクラブ(女子新体操)  
友野透選手(酒田RG所属、平成21年度全日本社会人大会2部個人総合優勝)  
工藤博仁選手(秋田県体操協会所属、全日本社会人大会出場)  
アルフレッサ日建産業男子新体操部(岐阜県、平成21年度全日本社会人選手権団体優勝)

### (2) 遊佐高校新体操部タンブリング教室

- ①年数回、遊佐高校を会場に遊佐町の小中学生を対象にしたタンブリング教室を開催する。
- ②主催 遊佐高校生徒会新体操部
- ③指導者: 遊佐高校新体操部OB・部員・顧問

## 6. まとめ

演技会盛会に快くご協力いただいた中田氏（青森大学）、荒川氏（青森山田高校）、野呂氏（盛岡市立高校）、ほか多くの新体操選手の皆さん、すべての実行委員各位に感謝申し上げます。特に中田氏には編著文献の引用も快諾していただきました。ありがとうございます。

さて、本演技会の主催は YUZA GALA 実行委員会（会長は遊佐高校新体操部 OB）であり、実行委員会が遊佐高校の施設・設備を借用し、遊佐高校新体操部などに出演依頼をしている事業である。私はその事務局として演技会運営に携わった。そのせいか、この研究は高体連専門部の研究にもかかわらず YUZA GALA 実行委員会報告書の様になってしまったこととお詫びします。

さて、高校スポーツの競技力向上の方策の一つとして、全国から優秀な選手を集めるという方法があるとは以前から良く知られていましたが、最近では、小中高一貫指導の継続によって強化しているチームがようやく結果を出していることを知りました。

本校新体操部が目指す競技力向上の方策は小中高の一貫指導です。これを実現するためには様々な段階や、今までにない苦労があると想像されます。そして、我々関係者の男子新体操と真摯に向かい合う姿が、多くの人たちに認められてこそ実現できるのだと思います。

時に、他県の男子新体操のレベルの高さを目の当たりにして力の差に愕然とすることもありますが、歩みを止めることなく、いつも情熱と向上心と学ぶ謙虚さを持って、かつて山形が手にした数々の全国の栄冠を再び手にするための準備を今から始めたい。この研究の機会を与えてくださった山形県高体連に感謝します。

最後に、今のところ YUZA GALA は県外のチームを招いて、トップレベルの演技を皆さんに見てもらっていますが、いずれは山形のチームがトップレベルと言われるように、普及と競技力向上の方策として継続していきたいと思います。そして、平成 29 年度には南東北インターハイ開催が予定されており、山形も開催の地元となります。YUZA GALA で男子新体操と出会った選手たちが、夢の舞台で力の限りの演技をすること、そして、男子新体操が多くの人たちから愛され続けることを願って止みません。

### 《参考文献》

- 男子新体操選手とコーチの独習マニュアル（編著 中田吉光、発行 アイオーエム）  
山形県立酒田東高校体操部五十年のあゆみ  
（編集 酒田東高校体操部編集委員会 発行 酒田東高校体操部後援会）  
男子新体操掲示板 <http://8042.teacup.com/kaicho/bbs?0F=0&>